

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200568		
法人名	株式会社アートジャパンナガヤ設計		
事業所名	グループホームうらら関		
所在地	関市倉知1726		
自己評価作成日	平成21年11月27日	評価結果市町村受理日	平成22年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170200568&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな地にあり、大きな窓から四季の移り変わりを眺めることができます。木造つくりの建物は、家庭的な雰囲気が漂い、利用者、職員が一緒になって毎日笑い声のたえない家です。3年以上勤務している職員が多く、家庭と仕事を両立し、生き活きと働いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム前の道に歩道が整備され、利用者にとって散歩に出かけやすい環境となっている。利用者の自己決定、利用者中心のケアの提供を職員で考えながら利用者と共に楽しい生活を送ろうと取り組んでいる。管理者は家族とのつながりを大切に考え、機会あるたびに家族に話しかけ、家族が利用者と面会したり、共に出かけたり、手紙や電話のやり取りが継続できるよう支援している。また、利用者の把握した趣味や特技を活かせるような活動を取り入れるため、家族からの協力を得ながら本人の笑顔を引き出している。職員数が多く、短時間ずつの勤務体制から、職員に精神的なゆとりが生まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中の「若鮎のごとく」は、利用者の言葉を取り入れている。職員の採用時に理念の理解を得たり、機会をとらえてケアの中に取り組むよう確認をしあっています。	理念に権利を守り自己決定の尊重、生き生きと生きがいをもって生活できる自立支援の原則、明るく生活できる良好な環境スペース等挙げているが、「若鮎のようだね」との利用者の言葉も取り入れている。毎月の職員会議で確認し共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学校の職場体験、小学校の運動会、保育園の行事等参加の予定はありましたが、インフルエンザの影響で中止となりました。おはぎ作りのときは隣りにおすそ分けしたり、行事には声かけをしています。	地域の小学校の運動会では、大きな文字で作ったプログラムを持って来て招待され、テント席を作ってもらい出掛けている。また、保育園児が来訪し、倉知太鼓を披露したりしている。近隣の美容院や牛乳店を利用し、日常からの交流を心がけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で地域の民生委員さんにお話をし、各所での啓発を依頼しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の出席しやすい日に開催をし、夏祭りに参加をしてもらったり、普段の様子を見て貰い意見の交流を図っています。その内容は、職員会議や議事録で職員に伝え検討しています。	行政、民生委員、家族等が出席し、ホームの様子やヒヤリハットの報告、行事の実施状況、家族からの要望等を議題にして年4回開催した。民生委員からは、地域のボランティアの紹介や地域行事の情報をもらう等、地域との橋渡しをしてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市と情報交換し、業務に対しても相談をしている。	介護サービス提供に関する質問をしたり、感染症対策など最新の情報提供を受けたり、家族向けの資料をもらう等連携を取っている。運営推進会議は土・日曜日に開催しているが、出席に協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておりませんが、玄関の施錠は、交通量が多い道路がある為、安全上施錠しています。	ユニットの出入り口にはセンサーがあり、外に出たい利用者には声かけをしたり、一緒にしばらく外出したり、時には車で出かけたりし、利用者を否定しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴言や言葉使いに関しては、日頃から職員で話し合っ気をつけています。身体的な虐待はありません。		

岐阜県 グループホームうらら関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用希望の方は、現在審査中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、重要事項説明書、契約書を読み合わせ、疑問点に対しては説明をさせていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会カードに意見・要望欄を設けて玄関の投入箱に入れてもらい、意見・要望を出してもらっています。また、面会時に意見不満、苦情を聞く体制をとり、ミーティング時等に職員につて検討しています。	運営推進会議に5～6組の家族が出席する他、面会時の面会用紙に質問や要望等意見が書き込めるようにしており、家族の活用がある。面会はその利用者にもあるが、家族の都合で間が開くときは電話などで報告し、要望を尋ねている。	家族とのつながりを大切にしているホームで運営推進会議への出席も多いが、さらには、欠席する家族にはあらかじめ意見を聞く等の工夫をし、より多くの家族の意見を吸い上げられたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を聞いて話し合っています。	毎月1回の職員会議で、管理者は、気づいたことを提案するよう職員に話している。職員から出された意見をもとに、利用者の状況の変化に対応したケアの手順の見直しが行われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長が個々にヒヤリングをし、職員個々の状況の把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社された職員は、1ヶ月研修期間として他スタッフが一緒に勤務についております。他、研修報告は職員会議で発表し閲覧もしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入し、他施設へ訪問したり、情報交換をし、よりよいサービスを目指し取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅・病院・サービス事業所等に出向き、本人、家族、サービス事業者の様子をお聞きしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接でご家族の苦労や今までのサービスの利用状況をゆっくりお聞きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け、可能な限り柔軟な対応を行い、他の事業所のサービスを勧める事もあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の活動を通じ、家事等を一緒に行なったり、本人の趣味を生かし、ピアノを演奏したり、習字を一緒に書いたりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子は面会時にも伝え、情報を共有し、本人を支えていくための協力関係を築いていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診時にお知り合いの方に会いに行かれたり、他施設に入所のご家族に面会にお連れして頂いています。また、親戚の方の訪問や知り合いの方の訪問、電話も続いています。	家族に利用者の知人に逢いに連れて行ってもらっている。職員が運転し、利用者の住んでいた地域を訪問したり、買い物に行った店で利用者の知人と遭ったりすることが現在も続いている。入居年数が長い利用者は、近隣や入居者同士、職員が馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなが楽しく過ごす事が出来るよう、職員が調整役となり、利用者同士の関係が円滑になるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方は、施設訪問時や電話連絡時に様子を伺ったり、面会させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の触れ合いの中で、利用者の希望を大切にし、電子オルガンや絵手紙、雑巾作り、習字等潤いのある暮らしを目指し、支援しています。	利用者の希望や書道・絵手紙等の特技を活かし、日常生活を楽しく過ごせるように支援している。はさみや爪切りを居室で持つことを希望する利用者については、本人やフロアの他の利用者の状態を把握しながら希望をかなえている。	職員数が多いので、利用者から聴き取ったことや気づきを、確実に記録に残しておく仕組みづくりについても検討されたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接で、ご家族や本人から今までの生活やサービス利用に至るまでのお話を伺っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活はケースに記入し、少しでも関わってきた事はミーティングや朝の申し送り時に伝え、ケースや申し送り帳に記入しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に家族からの要望をお聞きしたり、通院時に生活する中で注意する事を確認してサービスに取り入れています。	家族からの意見は面会時や電話時に希望を聴いている。医療面に関しては、往診や受診の際に職員が同行して医師の意見を聞き、介護計画の作成に反映させている。	さらには、希望や利用者の状態を取り入れて作成した計画を、全職員が共有して日常のケアの中で実践し、その評価を次の計画に活かすという仕組み作りを検討されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや理容赦の状態の変化はケースや申し送りに記入し、情報を共有しています。毎朝ミーティングを行い、状態の変化等の確認をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人とご家族の状況に応じて、通院が必要な時は柔軟に対応しています。また、ホームでの様子を伝えるため、ご家族の通院に職員も同席する事もあります。		

岐阜県 グループホームうらら関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアさんによる歌や踊り、有償の音楽療法、介護予防体操、絵手紙を行い、利用者の生き生きとした暮らしにつながっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は本人の希望により、従来の医師に受診をしています。家族が同行できない場合は、有償で職員が通院介助をしています。	入居前からのそれぞれのかかりつけ医に、受診したり往診に来てもらったりしている。通院は家族の付き添いを基本としているが、独居であったり、家族が遠い地域に住んでいる場合等、家族での対応が困難なときは、職員が介助している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や体調変化についての助言を貰ったり、医療につなげたりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医師や看護師、薬剤師に退院にむけて情報をお願いして、事業所内で対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう確認しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族への説明を行い、協力医院との連携により、終末期に対する体制を整えています。	入居契約時に、ホームでできること、できないことを説明し、利用者、家族と確認している。体調の変化に合わせ、かかりつけ医や家族と相談し、方針を決めて職員にも情報を提供している。終末期における様式は現在検討中である。	入居契約時の説明のみならず、終末期を迎えたときにも事業所の方針や家族の意向等を再度確認する仕組み作りも期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制のマニュアルは作成しています。各ケースに救急車対応時の利用者の情報は備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、避難経路、火災通報の確認をしています。	年2回、消防署に来てもらい、消防訓練、誘導方法の確認等を行っている。近隣にも有事の際は協力してもらうよう日頃より声を掛け、依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いは、利用者には入居時、職員は雇用時に説明し誓約書に記載をしております。また、毎回の職員会議で確認をし、職員の意識を高めるよう努めています。	利用者の生活歴から、人格や大切にしていること等、個々を尊重しながらケアに当たっている。声かけするときの言葉については利用者の誇りを傷つけないものであるよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や飲み物等、また日常の生活の活動において、押し付けるような事はせず、利用者の意思を尊重し生活できるよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れで生活して見えますが、個人個人の体調に配慮しながら、その時の本人の訴えを出来る限りお聞きし、その日と成りの生活を送ってもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは基本的に自分で決められますが、迷われる時は職員が考え本人にお聞きし支援しています。理容美容も髪型は店の人と相談しながらカットさせて頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養士がカロリー計算をして立案しているが、誕生日にはお好きな物を聞いて変更したり、季節感を感じていただけるよう工夫しています。調理、盛り付け、配膳等も手伝っていただき、職員も利用者の中に入り楽しく食事が出来るよう配慮しています。	食材の買い物、調理、盛り付け、片付け等利用者ができる事を一緒に行っている。メニューは利用者の希望を取り入れながら、栄養士にカロリー計算をしてもらい立てている。誕生会や行事のときは、お祝いメニューや出前、外食等で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は介護記録に記入しています。その人の状態に応じ、水分量を多くしたり、食物繊維を含んだ食事を多くしたり、配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣にし、手入れが出来るよう見守りをしています。夜間は義歯洗浄剤で消毒しています。		

岐阜県 グループホームうらら関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表で排泄チェックをし、時間を考慮してトイレに誘導しています。	排泄チェック表を利用して個々にあわせ、声かけ、誘導等を行っている。ユニットで利用者の状況の違いもでてきたので、排泄介助の支援が適切に行えるよう手順の見直しも行いながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表で排便の状態を把握し、食事のバランス、乳製品の提供、体を動かす事で自然に排便が出来るように予防しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに3時過ぎから入浴されています。入浴を嫌がる人にはタイミングや言葉がけを工夫して入浴して頂いております。	利用者の入浴は隔日を基本としているが、準備は毎日するため、急な入浴支援も行える。1対1で、福祉用具を使い、ゆったりと入浴している。浴槽をまたぐことが困難になってきたら介助者を2名にしたり、シャワー浴で対応し、安全な入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動する事を促し、その時の体調や希望に応じゆっくりと休む事が出来るよう配慮しています。今までの寝具、あんか等を使用しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を2度チェックをして確実に服薬されるのを確認しています。処方箋を整理し服薬の内容を確認できるようにしています。薬が変更になった時は、薬の内容・影響を申し送りに記入しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味等を把握して、お手伝い等をお願いしたり、その人が存在意義を感じて貰えるよう支援しています。外食や外出・季節の行事(初詣・花見・食事会)等も参加もあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い時は、散歩やドライブに出かけています。しかし、インフルエンザの流行の兆しがある頃から、人ごみへの外出(買い物等)は控えています。	ほとんどの人がシルバーカーを押しての外出であるが、体調や天候に配慮しながら、毎日30分～1時間ほどの散歩をしている。1日おきの食材の買物には、職員2人と利用者4・5人で行っている。1・2ヶ月に1回程度、弁当を購入したり、車椅子を手配し、季節の花見やドライブ等季節を感じる外出をしている。	

岐阜県 グループホームうらら関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はホームの金庫で管理しています。買い物時は、支払いをお願いしたり、必要品は選んで買っていただくこともあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけてもらっています。家族や知り合いの方からかかってくる事もあり、お話をしてみえます。難聴の方には職員が支援する事もあります。手紙は月1回書いてもらい、利用表と一緒に郵送しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるように、四季おりおりの飾りを利用者と一緒に作ったり、花や木の実を飾って楽しんでいます。快適な温湿度になるよう日の光を入れたり、エアコン等で室温を調整し、冬場には加湿器を使用しています。居室には24時間対応の空気清浄機を設置しています。	畳コーナーやソファコーナー等利用者の過ごしやすいような共有空間が作られている。季節感のある絵手紙や書道など、利用者の作品が展示され、利用者の個性が表れた生活空間ができている。利用者を否定しないケアのためにも職員の目が行き届くように共有空間にある家具の配置を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関内の入り口にベンチがあり、外を眺めながら話してみえます。畳の間や(冬は掘り炬燵)、居間のソファがあり、思い思いの所で過ごせるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真やダンス・ぬいぐるみ・テレビ・ベット等使い慣れたもの、趣味の書道道具など居室に持ち込まれ、その人らしく過ごせるよう配慮しています。	入居前に自宅訪問し、提供は居室のみである為、具体的な品名をあげ、できるだけ日頃使い慣れたものを持ち込んでもらうよう明記した重要事項説明書で家族と話し合っている。絨毯や布団等利用者の身体状況や好みに合わせた部屋作りがされ、楽器の持ち込みもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各フロアはバリアフリーで各所に手すりがついており、転倒に気をつけています。また、各居室にはそれぞれ違ったネームプレートが掛けてあり、風呂場・トイレの表示もしてあります。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200568		
法人名	株式会社アートジャパンナガヤ設計		
事業所名	グループホームうらら関		
所在地	関市倉知1726		
自己評価作成日	平成21年11月27日	評価結果市町村受理日	平成22年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中の「若鮎のごとく」は、利用者の言葉を取り入れている。職員の採用時に理念の理解を得たり、機会をとらえてケアの中に取り組むよう確認をしあっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学校の職場体験、小学校の運動会、保育園の行事等参加の予定はありましたが、インフルエンザの影響で中止となりました。おはぎ作りのときは隣りにおすそ分けしたり、行事には声かけをしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で地域の民生委員さんにお話をし、各所での啓発を依頼しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の出席しやすい日に開催をし、夏祭りに参加をしてもらったり、普段の様子を見て貰い意見の交流を図っています。その内容は、職員会議や議事録で職員に伝え検討しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市と情報交換し、業務に対しても相談をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておりませんが、玄関の施錠は、交通量が多い道路がある為、安全上施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴言や言葉使いに関しては、日頃から職員で話し合って気をつけています。身体的な虐待はありません。		

岐阜県 グループホームうらら関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用希望の方は、現在審査中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、重要事項説明書、契約書を読み合わせ、疑問点に対しては説明をさせていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会カードに意見・要望欄を設けて玄関の投入箱に入れてもらい、意見・要望を出してもらっています。また、面会時に意見不満、苦情を聞く体制をとり、ミーティング時等に職員につて検討しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を聞いて話し合っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長が個々にヒヤリングをし、職員個々の状況の把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社された職員は、1ヶ月研修期間として他スタッフが一緒に勤務についております。他、研修報告は職員会議で発表し閲覧もしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入し、他施設へ訪問したり、情報交換をし、よりよいサービスを目指し取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅・病院・サービス事業所等に出向き、本人、家族、サービス事業者の様子をお聞きしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接でご家族の苦労や今までのサービスの利用状況をゆっくりお聞きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け、可能な限り柔軟な対応を行い、他の事業所のサービスを勧める事もあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の活動を通じ、家事等を一緒に行なったり、本人の趣味を生かし、ピアノを演奏したり、習字を一緒に書いたりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子は面会時にも伝え、情報を共有し、本人を支えていくための協力関係を築いていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診時にお知り合いの方に会いに行かれたり、他施設に入所のご家族に面会にお連れして頂いています。また、親戚の方の訪問や知り合いの方の訪問、電話も続いています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなが楽しく過ごす事が出来るよう、職員が調整役となり、利用者同士の関係が円滑になるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方は、施設訪問時や電話連絡時に様子を伺ったり、面会させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の触れ合いの中で、利用者の希望を大切に、電子オルガンや絵手紙、雑巾作り、習字等潤いのある暮らしを目指し、支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接で、ご家族や本人から今までの生活やサービス利用に至るまでのお話を伺っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活はケースに記入し、少しでも関わってきた事はミーティングや朝の申し送り時に伝え、ケースや申し送り帳に記入しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に家族からの要望をお聞きしたり、通院時に生活する中で注意する事を確認してサービスに取り入れています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや理容赦の状態の変化はケースや申し送りに記入し、情報を共有しています。毎朝ミーティングを行い、状態の変化等の確認をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人とご家族の状況に応じて、通院が必要な時は柔軟に対応しています。また、ホームでの様子を伝えるため、ご家族の通院に職員も同席する事もあります。		

岐阜県 グループホームうらら関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアさんによる歌や踊り、有償の音楽療法、介護予防体操、絵手紙を行い、利用者の生き生きとした暮らしにつなげています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は本人の希望により、従来の医師に受診をしています。家族が同行できない場合は、有償で職員が通院介助をしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や体調変化についての助言を貰ったり、医療につなげたりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医師や看護師、薬剤師に退院にむけて情報をお願いして、事業所内で対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう確認しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族への説明を行い、協力医院との連携により、終末期に対する体制を整えています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制のマニュアルは作成しています。各ケースに救急車対応時の利用者の情報は備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、避難経路、火災通報の確認をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いは、利用者には入居時、職員は雇用時に説明し誓約書に記載をしております。また、毎回の職員会議で確認をし、職員の意識を高めるよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や飲み物等、また日常の生活の活動において、押し付けるような事はせず、利用者の意思を尊重し生活できるよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れで生活して見えますが、個人個人の体調に配慮しながら、その時の本人の訴えを出来る限りお聞きし、その日と成りの生活を送ってもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは基本的に自分で決められますが、迷われる時は職員が考え本人にお聞きし支援しています。理容美容も髪型は店の人と相談しながらカットさせて頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養士がカロリー計算をして立案しているが、誕生日にはお好きな物を聞いて変更したり、季節感を感じていただけるよう工夫しています。調理、盛り付け、配下膳等も手伝っていただき、職員も利用者の中に入り楽しく食事が出来るよう配慮しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は介護記録に記入しています。その人の状態に応じ、水分量を多くしたり、食物繊維を含んだ食事を多くしたり、配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣にし、手入れが出来るよう見守りをしています。夜間は義歯洗浄剤で消毒しています。		

岐阜県 グループホームうらら関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表で排泄チェックをし、時間を考慮してトイレに誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表で排便の状態を把握し、食事のバランス、乳製品の提供、体を動かす事で自然に排便が出来るように予防しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに3時過ぎから入浴されています。入浴を嫌がる人にはタイミングや言葉がけを工夫して入浴して頂いております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動する事を促し、その時の体調や希望に応じゆっくりと休む事が出来るよう配慮しています。今までの寝具、あんか等を使用しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を2度チェックをして確実に服薬されるのを確認しています。処方箋を整理し服薬の内容を確認できるようにしています。薬が変更になった時は、薬の内容・影響を申し送りに記入しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味等を把握して、お手伝い等をお願いしたり、その人が存在意義を感じて貰えるよう支援しています。外食や外出・季節の行事(初詣・花見・食事会)等も参加もあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い時は、散歩やドライブに出かけています。しかし、インフルエンザの流行の兆しがある頃から、人ごみへの外出(買い物等)は控えています。		

岐阜県 グループホームうらら関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はホームの金庫で管理しています。買い物時は、支払いをお願いしたり、必要品は選んで買っていただくこともあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけてもらっています。家族や知り合いの方からかかってくる事もあり、お話をしてみえます。難聴の方には職員が支援する事もあります。手紙は月1回書いてもらい、利用表と一緒に郵送しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるように、四季おりの飾りを利用者と一緒につったり、花や木の実を飾って楽しんでいます。快適な温湿度になるよう日の光を入れたり、エアコン等で室温を調整し、冬場には加湿器を使用しています。居室には24時間対応の空気清浄機を設置しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関内の入り口にベンチがあり、外を眺めて話してみえます。畳の間や(冬は掘り炬燵)、居間のソファがあり、思い思いの所で過ごせるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真やダンス・ぬいぐるみ・テレビ・ベット等使い慣れたもの、趣味の書道道具など居室に持ち込まれ、その人らしく過ごせるよう配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各フロアはバリアフリーで各所に手すりがついており、転倒に気をつけています。また、各居室にはそれぞれ違ったネームプレートが掛けてあり、風呂場・トイレの表示もしてあります。		